

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら名古屋西さこう教室			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日 ~ 2025年 12月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2024年 10月 1日 ~ 2025年 10月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数)	3人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【子ども一人ひとりに応じた関わりと支援】現在、子どもたちが集団の中で自然な形で他者と関わりながら、それぞれの課題や特性に応じた支援を受けられるよう心がけている。支援計画や日々の記録をもとに、発達段階や興味関心に合わせて活動を調整し、無理のないかたちで社会性やコミュニケーション力の育成につなげている。	職員間での情報共有を密に行い、「今、この子にとって必要な関わりは何か」を意識しながら日々の支援にあたっている。また、個別対応が必要な子どもに対しては、集団の中でも特定のスタッフが意識的に関わることで、安心感や安定した関係づくりを支えている。	今後は、アセスメントの視点をさらに深め、日々の活動と個別支援計画とのつながりをより明確にしながら、保護者と共有していく。
2	【子どもが安心して過ごせる環境づくり】当事業所では、子どもたちが安心して過ごせるよう、清潔で整った環境づくりを大切にしている。掃除や整理整頓を日々の業務として丁寧に行なうことはもちろん、物の定位置を決め、使ったものは元に戻すという習慣が子どもにも自然に伝わるよう、環境面での工夫を意識している。	活動ごとの備品や教材は使いやすく整理し、視覚的に整った空間づくりを心がけている。また、清掃や消毒のルールを職員間で共有し、日々のチェックリストや定期的な環境点検を通じて、衛生管理の徹底に努めている。	今後は、子ども自身が環境を整える経験を通じて「きれいに使う」「片付ける」といった生活習慣を身につけられるよう働きかけも意識しながら、よりよい環境づくりを継続していきたい。
3	【活動を支える豊富な教材と職員の工夫】多様な教材や遊具を取り揃え、子どもたちの発達や関心に合わせた活動が展開できるようにしている。既製品だけでなく、手作り教材も積極的に取り入れながら、活動内容に合わせたアレンジを加えている。	教材の使用にあたっては、単に「使う」のではなく、目的やねらいを共有した上で、どのように提示し、どのように関わるかといった点を職員同士で話し合うようにしている。日々の支援の中で、子どもたちの「できた！」を引き出す工夫や、達成感を感じられるような声かけ・援助の仕方に力を入れている。	今後は、教材の効果的な活用方法や支援手法について、職員間での共有や研修の機会を増やし、より統一感のある支援につなげていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在、地域との交流や連携の機会が限られており、他の福祉・教育機関や地域行事との接点を持つことが少ない状況にある。その背景として、障害のある子どもたちが安心して参加できる地域資源や活動の選択肢がまだ十分ではないことがある。子ども一人ひとりの特性や配慮事項を考えると、既存の地域行事や公共の場に参加するこれが難しい場面も多い。	地域とのつながりを持つことは、子どもたちの社会的経験の幅を広げ、自己肯定感や社会性の育成につながる可能性がある。無理なく、少しずつでも地域と接点を持てるような機会を探り、例えば地域の施設との交流や、来所型の地域資源の活用、地域の人を招いての活動など、子どもの安心・安全を確保しながらできる方法を模索していきたい。	今後は「地域の中で孤立しない事業所」を目指し、まずは情報収集や他事業所とのつながりから始め、子どもたちにとっても無理のない形で地域とつながる第一歩を大切にしていく。
2	子どもたちにいろいろな経験をしてもらいたいという思いから、活動や課題を比較的多めに用意することが多い。その分、子どもたちはさまざまなことに挑戦できますが、活動が続くことで疲れを感じることもある。	事業所では、一人ひとりの様子や特性に合わせて、自由時間や休憩の時間をしっかりと確保し、活動の量や内容に偏りが出ないように気をつけている。全員が同じことを無理にするのではなく、それぞれのペースや興味を尊重し、選べる活動の幅を広げるよう工夫している。	今後も、活動や課題の「量」だけでなく「質」や「目的」を明確にし、子どもたちが安心して自分で選びながら取り組めるよう、支援の仕方を見直し続けていきたいと考えている。
3			